

博物館だより

No. 10

企画展 「維新前夜の“地方文人”」

平成2年12月22日(土)～平成3年1月27日(日)



ゆうりんしゃどうじんきんきしよが しゅとくどうがちゆう わしづきどう
 ▲有隣舎同人琴棋書画の図 (種徳堂画帖) 鷺津毅堂画 服部敏夫氏蔵

天保11年(1840)10月、大赤見村の服部士廉はっとりしれん(牧山)宅で有隣舎に学ぶ同人8人により詩宴が催された。作品は『種徳堂画帖』にまとめられ、「耕餘清宴」と題した巻頭にこの画が描かれる。詩宴は以後「田家四時歌」と題して続けられ、鷺津益斎わしづえきさいの亡くなった13年に第四回をもって終わっている。画の筆者の文都とは毅堂の若き日の名で当年満15才である。

人物は、有髪で羽織無は鷺津毅堂・森春濤もりしゅんとう、有髪の羽織着は服部牧山・鷺津益斎・服部赤城はっとりせきじょう、円頂黒衣が桂岸けい・坦道たんどう、円頂丸羽織は森有斎もりゆうさい。

企画展

維新前夜の“地方文人”

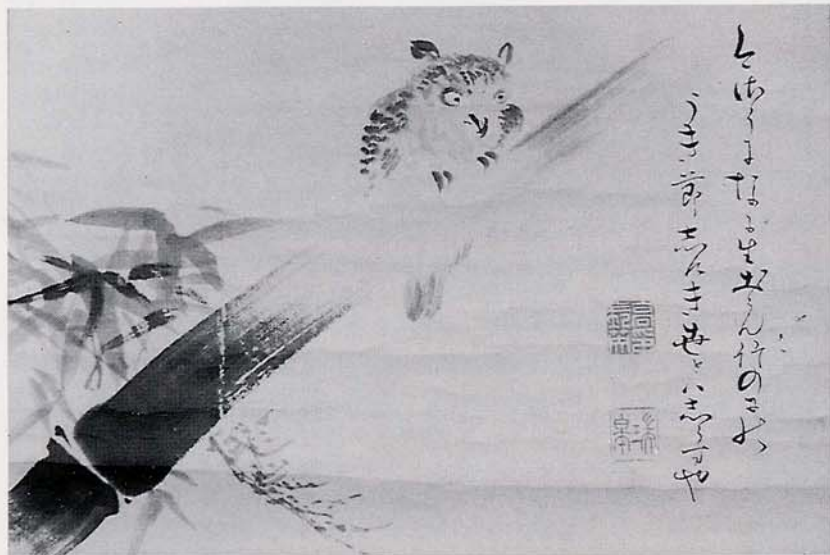
一宮を中心とする尾張西部地方は、江戸時代も半ばをすぎると農村経済の発展をみ、綿織物を主役とする資本主義生産発達の最先進地域となりました。そうした経済的なゆとりと共に、他地域への往来が比較的自由になると、郷里を離れ京・江戸などで学問を身につける人々が現れ、また彼らを通じて一層学問が普及し、“文人”と呼ばれる多くの知識人が出現するところとなりました。

特に私塾有隣舎や好学的な気風のあった北方代官所^{きたがただいかんしょ}周辺を中心に、学問に志をもつ人々が互いに交流を深め切磋琢磨をし、やがてそれぞれの道を歩んでいきました。また、蘭学者高野長英や、幕末期には藤本鉄石をはじめ勤王の志士達もこの地を訪れ、文人達と交友を持っています。これらの文人達を通じて、京・江戸を中心とした新しい政治・学芸の流れが周辺の人々にも大きな影響を与えていたものと思われま

す。この展覧会では、漢詩人森春濤^{もりしゅんとう}・服部牧山^{はっとりぼくざん}と有隣舎をめぐる人々、そして北方村の医師小沢錦水、彼と交友の厚かった儒学者細野要齋^{ほそのようさい}に焦点を充て、維新前夜の文人達の交流の様子を紹介いたします。

《有隣舎の周辺》

藩政改革の中、天明3年(1783)名古屋に尾張藩校「明倫堂」が開設されましたが、それに先立つ宝暦年間(1751~1764)一宮村の近郷丹羽村に鷺津幽林が「万松亭」を開き、幕末期の安政5年(1858)には、木曾川



▲竹にミミツクの図 高野長英筆 小島太郎氏蔵

▶小沢錦水肖像画 細野要齋賛 山田訥齋画 小沢武男氏蔵



に面した北方村の地に、北方代官深沢新平によって「牛刀舎」が開設されました。万松亭は孫の益齋の時に「有隣舎」と改称され、江戸の大沼枕山をはじめ佐藤牧山・森春濤・鷺津毅堂、大赤見村庄屋服部赤城・同じく服部牧山、僧侶の竺坦道・桂岸、森有齋・東浅井村の接骨医森林平など近郷の僧侶・医者・庄屋の若者達がここで学んでいます。最盛期には尾張・美濃のみならず遠く出雲・讃岐・遠江からも入門者がありました。

こざわきんすい ほその ようさい
《小沢錦水と細野要齋》

北方村に「牛刀舎」が生まれた頃、藩校明倫堂の教職を退いた細野要齋が木曾川を挟んだ対岸円城寺村（岐阜県）の郷校「培根舎」に招かれて教授にあたり、周辺の文人達との交遊を楽しんでいます。中でも北方の医師小沢錦水は、幕府に追われる蘭学者高野長英をかくまったことで知られ、他にも様々な文人を迎えた好学の士でした。そして、要齋は丹羽村東光寺の僧に対面し、丹羽村に鷺津家を訪問しています。森春濤もこの頃錦水・要齋と交流を深めています。要齋の随筆『感興漫筆』・『諸家雑談』にはそのあたりの様子が事細かに記され、このほかにも近隣の数多くの人々との交わりを知ることが出来ます。

有隣舎を代表する森春濤にはなお多くの文雅の人々と交友がありました。『春濤詩鈔』には村瀬太乙・江馬細香・斎藤拙堂・松本奎堂などのほか人情本作家為永春水門の為永春蝶、狂歌師春日井三七、歌人佐分利清因など様々な分野の人物が見られ、小信中島村（尾西市）の吉田高遠や画家吉田蘇川・稼雲兄弟とは有隣舎同門で特に親しく、そこで出会った藤本鉄石とも交遊

がありました。また、京に梁川星巖を訪ね頼支峰三樹兄弟・家里松嶺など尊攘の志士との交渉も持っています。

◆写真のほか主な展示資料

- 服部牧山／詩幅「烹茶」、耕雲亭詩集
- 有隣舎門人／寄書「田家四時歌」、書画貼交屏風
- 鷺津毅堂／「賀服部士廉新居」、「小永井小舟を送る詩」
- 細野要齋／錦水堂記、戯画併題
- 森春濤／「小沢先輩へ贈る詩」、「吉田蘇川宅観藤花」
- 錦水所用本箱（春濤賛山田訥齋画）
- 錦水使用の薬酒看板・薬酒瓶・竹茶杓
- 江馬細香書画・藤本鉄石書画など。

- 講演会 1月13日(日) 午後1時30分
 テーマ「地方文人の役割」
 国立歴史民俗博物館教授
 塚本 学氏
- 展示説明会 1月27日(日) 午後1時30分
 当館学芸員



太古石図 細野要齋賛 小沢錦水画 竹内ひで子氏蔵



靈芝竹岩図 森春濤賛 喜田華堂画 後藤利光氏寄贈



蘭梅花図 鷺津毅堂・森春濤賛 吉田稼雲画 兼松作吉氏蔵

資料紹介

瀬戸 灰釉角形香炉 一宮市千秋町芝原字五十分24-1 安藤 一世士氏 寄贈

高さ13.3cm、口径23.4cm×17.6cmの角形香炉。呉須で銘を記し、白く発色した灰釉が全面にかかる。江戸時代後期の本業窯の製品らしく、大形、厚手のものである。前面に「巴屋勘七」、左側面に「天保六乙未年 仲冬吉祥日」、右側面に「尾張名古屋 鉄砲塚町」、底面に「於瀬戸 早梅亭 造之」の銘がある。この銘により、名古屋の鉄砲塚町に住む巴屋勘七が、天保6(1835)年に、瀬戸の早梅亭にこの香炉を作らせたものであることがわかる。

早梅亭とは、瀬戸の陶工加藤善右衛門(初代善治)(1785~1873)のことで、文化・文政年間に弘法大師像二千体を作り広く世人に分け与えたことから「弘法善治」の名で知られる。二代善治も早梅亭を号し、弘化3(1846)年から染付焼(製磁)を始め、慶応3(1867)年の「窯株名寄覚え帳」瀬戸村の染付焼窯株の持ち主として顔を出す。また巴屋勘七は、鉄砲塚町に住んだ商人で、慶応4(1868)年の『御用達名前帳』で「御奉行所御用達格次座」に名を連ねる。鉄砲塚町は現在の名古屋市東区相生町で、建中寺の西のあった町名である。

(土本典生)

参考文献 『をわりの花』『名古屋市史 政治編第二』『同地理編』『瀬戸市史 陶磁史編三』



【最近の博物館】

『豊蔵の至芸』展 好評のうちに閉幕!!

(財)豊蔵資料館、愛知県陶磁資料館のご協力を得て開催した特別展『豊蔵の至芸』も11月12日をもって閉幕しました。

10月13日の開会式には、荒川武夫・橋崎彰一両先生をはじめとして約100名のご来賓があり、神田市長、荒川先生が展示室のドアを開き、特別展が開幕。また、当館茶室に豊蔵卒寿「ひでかしの茶碗に栗の落葉かな」という俳画を掛け、呈茶を行いました。



10月21日、橋崎先生の「志野への道」と題する講演会には100余名の来聴者があり、「志野」や茶陶の歴史をたどることができました。

今回の展示では、豊蔵氏が採集した牟田洞古窯出土志野筒絵茶碗の陶片、それを手本に作られ「随縁」という銘をもつ志野茶碗、81歳のときから窯場をめぐり描いたという五窯歴遊の書画など42点の作品と出土資料を出陳しました。



博物館講座をはじめました!!

博物館では平成元年度から繊維講座を開催してきましたが、今年度からは親子で参加できるものや体験学習などの講座をふやし、よりたくさんの皆さんに利用していただけるようになりました。

親子歴史講座－弥生時代のくらし－ 7/24開催

参加者：親子15組32人

この講座では、貝殻山貝塚資料館・愛知県埋蔵文化財センターを見学し、弥生時代の人々がどんな生活をしてきたかを学びました。また、市内萩原町山中遺跡の発掘現場では、実際に弥生時代の人々が生活した跡を見学し、弥生人をより身近に感じられたことと思います。参加した皆さんから、こんな感想をいただきました。

☆土器を手でさわれたことがよかった。2000年も前のことがわかるなんて不思議だ。

☆土器の種類におどろいた。自分の田んぼも掘ってみたくなった。

夏休み子供講座－糸をつむいで織ってみよう－



対象：小学5年生
～中学3年生
参加者：8/11
→10人
8/19
→9人

この講座では、紡錘車を使って実際に糸作りを体験したあと、毛糸を原始機の方法で織ってみました。太い毛糸でさえ失敗して何度もやり直すなど、弥生人の苦労が体験できたと思います。1日講座を終えたあとの皆の顔が、そのことを物語っていました。

参加者の感想の中にも
ご要望があり、来年も
見学会・体験学習などの
講座を計画していきます
のでよろしく!!



【博物館員の紹介】

前中山雅麗事務局長が図書館事務局長として赴任され、博物館では今年度の10月1日から大森喬事務局長を迎えました。現在博物館は、下記の職員で運営しています。

館長 岩野見司 (学芸・考古)
事務局長 大森 喬

◎庶務係

局長補佐 山崎正己
兼係長
主 事 佐藤貴子
嘱 託 後藤弘通

◎学芸係

局長補佐 小野田雅一
(歴史)
学芸係長 土本典生
(考古)
学芸員 毛受英彦
(歴史)
学芸員 田中禎子
(民俗)

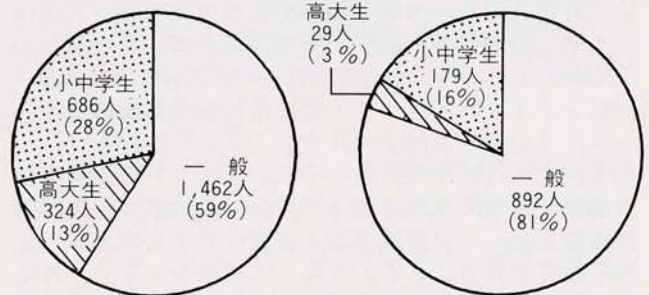
博物館は今年度の11月で満3歳になりました。展覧会・講座などの行事も少しずつですが増えてきました。昨年度には年報1、紀要1、資料目録などを発刊し、今年度の春には登録博物館にすることができました。

これからも新しい企画を考え、一同がんばっていきますので、よろしくお願ひします。

【展覧会開催中の入館者数】

A. 企画展「陶器の源流－須恵器」
7/21～8/31 2,472人/36日

B. 企画展「一宮の文化財」
9/14～10/7 1,100人/21日



博物館日誌（抄）（2.6.1～10.31）

- 2.6.10 第3回織維講座
2.6.17 映画会「芹沢銈介の美の世界」
「芭蕉布を織る女たち」
2.6.24 第4回織維講座
2.7.8 第5回織維講座
2.7.21～8.31 企画展「陶器の源流－須恵器」
2.7.22 第6回織維講座
2.7.24 親子歴史講座－弥生時代のくらし－
2.7.29 展示説明会
☆上映映画「古墳のつくられたころ」
2.8.12 講演会「装飾土器－動物と風俗－」
講師 三重大学人文学部教授 八賀晋氏
2.8.12 第7回織維講座
2.8.19 夏休み子供講座
「糸をつむいで織ってみよう!!」
2.8.26 第8回織維講座
2.9.14～10.7 企画展「一宮の文化財」
2.9.9 第9回織維講座
2.9.23 講演会「一宮の歴史と文化財」
講師 岐阜大学名誉教授
一宮市文化財保護審議会委員
日置弥三郎氏
2.9.23 第10回織維講座
2.9.30 映画会「京都の歴史と文化」「室町美術」
2.10.13～11.12 特別展「豊蔵の至芸」
2.10.14 第11回織維講座
2.10.21 講演会「志野への道」
講師 名古屋学院大学教授 檜崎彰一氏
2.10.28 ミュージアム・コンサート
演奏者 一宮市消防音楽隊
サキソホン アンサンブル
2.10.28 第12回織維講座

【ご来館ありがとうございました】 （2.6.1～10.31）

愛知県埋蔵文化財センター・今伊勢中保育園母の会・市内小中学校新任教職員・共長公民館歴史セミナー・同気会・北方連区婦人会・尾西北地区家庭科研究会・千秋町連区婦人部衛生委員・松阪市市議会議員・國學院大学・愛知県公立病院会管理課長会議・尾西市親子文化財めぐり・浜北市教育委員会・帯広市市議会議員・一宮中ライオンズクラブ・愛知県尾張事務所経済課・一宮市社会福祉協議会浅井支会・立田村教育委員会・尾張西地区行政相談委員・千秋小3年生・公立病院給食部会・扶桑町高雄東校下婦人会・愛知県文化財保護指導委員会・一宮茶道連盟・萩原中PTA婦人部・佐織町教育委員会ふるさと教室・大和南中1年生・丹陽中1年生・一宮市商工課史跡めぐり・七宝町文化財保護委員会・大和南小・大志小6年生・尾張地区消防署長会・愛知県都市計画課・大府市公民館寿大学院・西春日井郡竹屋町町内会

これからの博物館

企画展「一宮のまつり」 3/2～4/7

一宮市内には、一年の節目ごとに祝ったり、願ったりする祭がいくつか残っています。以前は現在よりもっとたくさんの行事が村々で行われていたのですが、年々小規模になったり廃止されてしまった祭も少なくありません。

今回は、一宮市内に残る代表的な祭－石刀祭・黒岩祇園祭・ばしょう踊・浮野秋祭・重吉甘酒祭などで使う道具を展示し、また祭の様子を写真パネルを使って紹介します。



▲石刀祭 中屋敷車からくり人形（90.4.22撮影）

博物館講座

☆連続講演会「古代を語る」（平成3年2月予定）

「吉野ヶ里遺跡を語る」

講師 天理大学教授 金関 恕氏

「藤ノ木古墳を語る」

講師 奈良県立橿原考古学研究所

前園実知雄氏

「長屋王家木簡を語る」

講師 東洋大学教授 鬼頭清明氏

詳細は広報などでお知らせします。

その他お問い合わせは博物館まで。

一宮市博物館だより 第10号

平成2年12月22日

編集・発行 一宮市博物館

〒491 一宮市大和町妙興寺2390番地

TEL 0586-46-3215

FAX 0586-46-3216